

# 福岡工業大学 学術機関リポジトリ

A report on the promotion video production contest between FIT and KMITL - The 1st Cross-Education Project 2020 -

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2022-07-27 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 江口, 啓 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/11478/00001720">http://hdl.handle.net/11478/00001720</a>

福岡工業大学ーモンクット王工科大学間での  
プロモーションビデオ制作コンテストの実施報告  
ー2020年度 第1回クロスエデュケーション・プロジェクトー

江 口 啓 (電子情報工学科)

**A report on the promotion video production contest between FIT and KMITL  
- The 1st Cross-Education Project 2020 -**

Kei Eguchi (Department of Information Electronics)

**Abstract**

The 2020 1st cross-education project, which was performed between Fukuoka Institute of technology (FIT) and King Mongkut's Institute of Technology Ladkrabang (KMITL) Thailand, is reported in this paper. In this project, 10 FIT students and 34 KMITL students participated and created the promotion video for each other's universities, where the promotional video was produced by a mixed team of Japanese and Thai. Through this project, participating students have acquired communication skills and international understanding.

**Key words:** *Global project-based learning, Online project-based learning, Promotional video contest, Team making*

**1. はじめに**

近年、高等教育においては、“国際的な流動化による急速な科学技術の進歩と高度化に対応できる能力を持った人材”の育成<sup>1)</sup>が急務とされており、芝浦工業大学をはじめとする様々な大学において、海外渡航型のgPBL (Global Project-Based Learning) プログラム<sup>2)-4)</sup>が盛んに実施されるようになってきた。我々福岡工業大学においても、2018年から芝浦工業大学と本学協定校であるモンクット王工科大学ラカバン校 (KMITL: King Mongkut's Institute of Technology Ladkrabang) の協力の下、海外渡航型のgPBLプログラムを実施<sup>5)-7)</sup>してきた。しかしながら、近年の世界的な新型コロナウイルス感染流行の拡大によって、海外渡航型のgPBL実施が困難となり、そのプログラムの見直し、ならびに、代替プログラムの設計が求められている。

この問題を解決すべく、筆者らはオンラインミ

ーティングツールであるZoomを活用したオンライン型のgPBLプログラム:「第1回クロスエデュケーション・プロジェクト」を2020年度に実施したので、本論文においてその実施報告を行う。従来の海外渡航型のgPBLプログラムとは異なり、本取り組みは、①オンライン型のgPBLプログラムである、②国籍の異なる大学生が1つのチームとなって共同してコンテスト形式のビデオ制作に取り組む、③国籍の異なる学生同士が互いに動画制作のための素材を提供し合うことで、お互いの大学のプロモーションビデオを制作するという3つの特徴をもつ。

**2. プログラムの概要**

本オンライン型のgPBLプログラムで設定した制作課題は、「5分間の大学のプロモーションビデオを制作」するというものあり、本学の江口啓教

授（工学部電子情報工学科），KMITL 工学部 Automation Engineering の Amphawan Julsereewong 准教授，ならびに，KMITL 工学部 Automation Engineering の Sawai Pongswated 准教授によって立案・運営された。本プログラムは，表 1 のスケジュールで実施され，本学学生 10 名（電子情報工学分野，および，電気工学分野）とタイ・KMITL の学生 34 名（電気工学分野，情報工学分野，産業応用分野，ならびに，機械工学分野）の合計 44 名が参加した。本プロジェクトの実施期間に関しては，KMITL の運営者との事前打ち合わせを行うことで，双方の大学の休業期間に合わせる形で設定された。

はじめに，2021 年 1 月 8 日を締め切りとして，本プロジェクトへの参加募集を行った。学生の募集にあたっては，KMITL の学生有志から本プロジェクトのフライヤーを自主制作して頂き，学生募集を広く呼び掛けた。続いて，1 月 11 日にキックオフ・ミーティングを実施した。キックオフ・ミーティングにおいては，本プロジェクトの運営者からの挨拶とコンテスト内容の詳細説明が行われた後，参加学生の英語による自己紹介とグループ作りが行われた。図 2 は，Zoom 上でのキックオフ・ミーティングの様子である。グルーピングを行う際には，図 3 に示すように，専門分野の異なる学生 4～5 名で，FIT の学生と KMITL の学生とを混成してグループが構成された。

表 1 プログラム・スケジュール

2021 年	内容
1 月 8 日	参加申し込み締め切り
1 月 11 日	キックオフ・ミーティング (コンテスト内容の説明，自己紹介，ならびに，グループ作り)
1 月 15 日	グループメンバーの公表
3 月 22 日	ビデオ提出締め
3 月 29 日	授賞式

すなわち，グローバル化教育の一助として，学生間の基本的な会話を全て英語で行わせ，英語技能の実践と異文化交流とを参加学生に体験させた。



図 1 KMITL 有志によって制作された本プロジェクトのフライヤー



図 2 キックオフ・ミーティングの様子

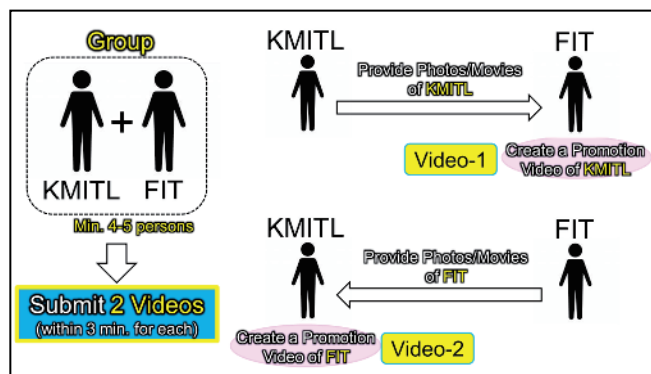


図 3 グループ構成と制作ルール

また、ビデオ制作においては図3に示すように、KMITLの学生からFITの学生へKMITLのビデオ制作のための素材を提供させることで、FITの学生に日本人の視点からKMITLのプロモーションビデオを制作してもらった。一方、FITの学生からはKMITLの学生へFITのビデオ制作のための素材を提供させることで、KMITLの学生にタイ人の視点からFITのプロモーションビデオを制作してもらった。すなわち、各グループの参加学生に、お互いの大学のプロモーションビデオを制作させ、3月22日までに1グループあたり2本のビデオの提出を義務付けた。プロモーションビデオの制作においては、ドローンを使ったキャンパスの空撮を希望する学生も出たため、本学管財課にご協力頂き、図4のドローン飛行許可依頼書を学生に提出させた上で空撮を許可した。

投稿されたプロモーションビデオに関しては、FITとKMITLの3名の運営者による投票結果を基に優秀作品が選出され、3月29日の授賞式において発表された。授賞式においては、運営者からの挨拶の後、KMITLとFITの学生が協力して制作した各大学のプロモーションビデオが放映された。審査の結果、2020年度第1回クロスエデュケーション・プロジェクトでは、“Nutnaree Deesittivateさん(KMITL), Pirunsan Sripumbangさん(KMITL), Orapan Saelokさん(KMITL), Chetsadaporn Traivinidsreesukさん(KMITL), 城野祥基さん(FIT)”のチームがBest Presentation Award(副賞USD1,000)、“Jiraporn Prapasirisuleeさん(KMITL), Traisoran Raveewatsiriさん(KMITL), Chanakarn Pareeruekさん(KMITL), 松尾拓海さん(FIT)”のチームが2nd Best Presentation Award(副賞:USD400)に選ばれた。また、全ての参加学生に対しては、図5に示すような本プロジェクトへの参加修了認定証が授与された。

授賞式における学生インタビューにおいては、「海外交流が難しいコロナ禍において、海外交流の機会を作って頂いて感謝している。」「外国人の友達ができて嬉しかった。今後もプロジェクトを

継続して欲しい。」「ビデオの制作を通じて提携校のことが深く知れて良かった。」などの肯定的な意見が多く寄せられており、参加学生による本プロジェクトの印象は良好であった。

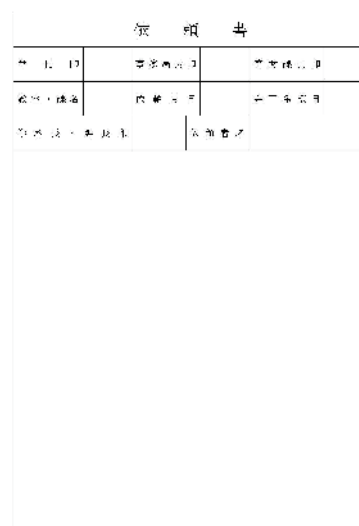


図4 ドローン飛行許可依頼書

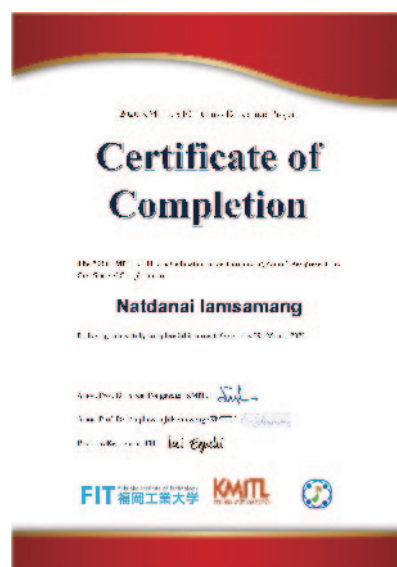


図5 参加修了認定証

### 3. まとめ

本論文においては、オンラインミーティングツールであるZoomを活用したオンライン型のgPBLプログラム:「第1回クロスエデュケーション・プロジェクト」の実施報告を行った。これまで本学

で行われてきた海外渡航型の gPBL プログラムとは異なり、本取り組みは、空間的な制約に捕らわれないオンライン型の gPBL プログラムである。

本プロジェクトにおいて、FIT と KMITL の学生間にお互いの大学のプロモーションビデオの制作を行わせた結果、コロナパンデミックの状況下においても gPBL プログラムを実践できることを明らかにした。活動中においては、学生有志制作によるコンテスト・フライヤーを用いた広報活動など参加学生による積極的な活動が行われており、本プロジェクトが参加学生の意欲を刺激するものであったと思われる。また、参加学生に対するインタビューにおいて、肯定的な意見が多く寄せられたことから、本プロジェクトに対する参加学生の印象は良好であったと思われる。

今後、本プロジェクトを継続していくことで、学生活動についてのデータを蓄積し、本プログラムの学習効果の検証、プログラム修了学生の進路調査、ならびに、人的・金銭的など多面的な費用対効果の検証を行う予定である。

なお、第 1 回クロスエデュケーション・プロジェクトの受賞作品については、オンライン動画共有プラットフォーム YouTube にアップロードされているので、時間が許すようであれば動画の方をご覧頂きたい。

<https://youtu.be/41Ff12OvB14>

(KMITL プロモーションビデオ 1)

<https://youtu.be/bfn62UUcuM4>

(FIT プロモーションビデオ 1)

<https://youtu.be/qprLdXooXvE>

(KMITL プロモーションビデオ 2)

<https://youtu.be/owZkjMM4OdM>

(FIT プロモーションビデオ 2)

## 謝辞

本プロジェクトをご支援頂いた、村山理一 工学部長、前田洋 情報工学部長、藤井洋次 社会環境学部長、国際連携室の方々、ならびに、管財課の方々へ御礼を申し上げます。

## 参考文献

- 1) 文部科学省大学審議会：グローバル化時代に求められる高等教育の在り方について、  
[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo4/006/gijiroku/020401bd.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/006/gijiroku/020401bd.htm) (2022 年 2 月 27 日アクセス)
- 2) 安藤吉伸, 水川真, 吉見卓, Lam Trung Ngo, Dung Le: 芝浦工大・ハノイ理工科大連携によるグローバル PBL: ロボット教材を用いたミッション遂行形国際 PBL の実施報告, 工学教育研究講演会講演論文集, pp.250-251 (2014)
- 3) 吉永崇寛, 中尾基: 海外大学との共同 GPBL プロジェクト: グローバル・コンピテンシーを有するエンジニアの育成, 工学教育研究講演会講演論文集, pp.242-243 (2015)
- 4) Ohkura Michiko, Ito Kodai, Apirukvorapinit Paskorn, Charoenpit Saromporn: Multi-media Global PBL with HTML5 and TECHTILE Toolkit for Japanese and Thai Students, JSEE Annual Conference International Session Proceedings, pp.45-50 (2017)
- 5) 江口啓, 倪宝栄: 電子情報工学科における海外派遣問題解決型学習 (gPBL) プログラムへの参加報告, 福岡工業大学 FD Annual Report, 第 8 巻, pp.25-32 (2018)
- 6) 江口啓, 倪宝栄, 軯田顕章: モンクット王工科大学における海外派遣問題解決型学習プログラムへの参加報告, 福岡工業大学 FD Annual Report, 第 9 巻, pp.40-47 (2019)
- 7) 江口啓, 倪宝栄: 海外派遣問題解決型学習プログラムの実施報告ーモンクット王工科大学におけるケースー, 福岡工業大学 FD Annual Report, 第 10 巻, pp.3-10 (2020)